



* 16名の旅立ちの日 令和3年度卒業式* 3月18日(金)

卒業式が厳粛に挙行されました。まん延防止特別措置期間中のため、ご来賓はPTA会長様だけ参列していただきました。在校生代表として4、5年生も出席しました。1、2、3年生は教室で卒業式の様子をリモートで視聴しながら参加しました。卒業式の最後の校歌は1、2、3年生が事前に録音した歌を流しました。心のこもった素敵な歌声に目頭が熱くなりました。式場には参加していませんでしたが、これまでの感謝の思いは卒業生に伝わりました。今年も歌と呼びかけの代わりに、一人一人が卒業証書を受け取った後、今後の抱負について述べました。立派な態度での発表でした。自分の目標に向かってしっかりと歩いていって欲しいです。

【校長式辞】

校庭の桜の蕾がふくらみ、春の訪れを告げています。校木大いちょうも若芽を付け、皆さんの卒業をお祝いしています。16名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。卒業証書を手にした今の気持ちは、どのようでしょうか。大きなランドセルを背負って入学した日から、あっという間の六年間だったことでしょうか。楽しい思い出がたくさんできましたね。しかし、時にはつらいこともあったことでしょうか。いろいろな思い出を胸に、今日は皆さんの旅立ちの日です。

お子さんを大切に育みこの日を迎えることができました保護者の皆様おめでとうございます。また、長きにわたり、本校教育にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、令和3年4月8日にスタートした今年度。今年こそは、順調にスタートが切れました。学校教育活動も制限はあるもののできることをできる方法で行ってきました。楽しみにしていた修学旅行、国会見学も無事できました。緊急事態宣言発令後の運動会は、種目数が少なくなりましたが、6年生の活躍により無事実施することができました。

昨年夏には「東京オリンピック・パラリンピック」が、今年冬には「中国北京で冬季オリンピック・パラリンピック」が開催され、スポーツの素晴らしさを目の当たりにしました。世界中の選手の活躍を見ることができました。その中でも日本人選手の活躍は素晴らしいものがありました。多くの選手がメダルを獲得し、史上最高のメダル獲得数となりました。どの選手も、メダルを取った喜びというよりもコロナ禍においても練習や活躍の場を与えてくれたことに対する感謝の気持ちを第一に伝えていました。自分だけではない、周りの人の助けがあったからだ。また、日本人はプレッシャーに弱いと言われていました。心の弱さから自分の力を出し切れなかったと。

夏のオリンピックにも出場し入賞を果たし、冬のオリンピックでは3回連続メダルを獲得し、今回念願の金メダルを獲得した、スノーボード選手平野歩夢さんは2回目の演技で思った得点が取れずプレッシャーのかかる中、3回目でさらに高さを増して史上最高難度の技を見事に決め、金メダルを獲得しました。子どもの頃からの夢そして目標が実現しました。また、メダル獲得に向け、スノーボードだけではなくいろいろなスポーツにもチャレンジして基礎を作ったそうです。歩夢さんの弟海祝さんは、「兄の努力を目の前で見てきたのでメダルを取ってあたりまえです。」と答えていました。平野選手は現在23歳。まず1つ目の夢を叶えました。

皆さんも先ほど、中学校に行きたくて頑張りたいことを発表してくれました。将来に向けてのステップとして中学校生活を充実したいという言葉もありました。今の自分を見つめ、これから何をしたらよいかを考えてください。「努力は決して裏切らない」、目標に向かって、コツコツとやるべきことを積み重ねていきましょう。勉強でも運動でもやればやっただけ力になりますし自信へと繋がります。

昨日、「いのちの歌の歌詞」を題材にして道徳の授業を一緒にしました。その歌詞の中で「生まれてきたこと 育ててもらえたこと 出会ったこと 笑ったこと そのすべてに ありがとう」の歌詞に自分たちが生まれてきたことの奇跡やここまで成長したことは多くの人たちの支えがあったことに気付き、感謝の気持ちをもつことができましたね。そして、この授業で心に残った言葉を尋ねると多くの方が、「この命に ありがとう」と答えていました。家族であり自分と関わったすべての人の支えがあるから今の自分があるのです。これからも、多くの人たちとの関わりをもって生活していきます。そんな人たちを大切に思い、感謝の気持ちをもって行って欲しいです。1人では生きていけませんし、目標を達成することもできません。

さて、皆さんは常に下級生のお手本となる最上級生でした。まずは、あいさつです。相手の目をみて相手に聞こえる声であいさつをしていました。いつでもどこでも、私と会うと必ず目を見てあいさつをしてくれました。「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」みなさんからあいさつのシャワーを受けて、たくさんのエネルギーをもらいました。登下校時、横断歩道を渡った後のあいさつも立派でした。「いつでも、だれにでも元気なあいさつ」は、栃本小のよい伝統です。きっと、5年生を始め下級生が引き継いでいってくれることでしょう。また、どんな場面でも全力で取り組む姿、一生懸命な姿で下級生を導いてくれました。ありがとう。栃本小で学んだことは、皆さんの力になっているはずです。自信をもって歩いて行ってください。

また、ここ栃本小学校で出会った私たち職員、多くの地域の人たち、そして一緒に学んだ友。いつまでも皆さんを応援しています。

今日、栃本小学校を巣立つ16名の皆さんが未来に向かって大きく羽ばたいていくことを期待して式辞いたします。



令和4年3月18日

佐野市立栃本小学校長

谷 恵子

地域の人々、家族、友達、多くの人々の支えがあってこの日を迎えることができました。子どもたちに関わってくださったすべての人に感謝いたします。「ありがとうございました」

